

2007

7
July

No.2

国立大学法人 九州工業大学

産学連携推進センター

annual
NEWS

発行

九州工業大学産学連携推進センター

〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1

TEL (093) 884-3485 FAX (093) 881-6207

e-mail: office@ccr.kyutech.ac.jp

九州工業大学産学連携推進センター飯塚分室

〒820-8502 飯塚市川津680-4

TEL (0948) 29-7895 FAX (0948) 29-7899

e-mail: iizuka@ccr.kyutech.ac.jp

URL : <http://www.ccr.kyutech.ac.jp/>

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
COLLABORATION CENTER



特集：九州工業大学技術交流会の設立

Special Issue

キューテックコラボ

C | O | N | T | E | N | T | S

■ センター長就任のご挨拶 鹿毛 浩之 2

■ 特集 九州工業大学技術交流会の設立 3
(キューテックコラボ)

○九州工業大学技術交流会の設立にあたり 3

九州工業大学技術交流会 会長 鶴田 暁

(環境テクノス株式会社 代表取締役)

○技術交流会(キューテックコラボ)と地域との連携 4

九州工業大学 理事・副学長 松永 守央

○九州工業大学技術交流会(キューテックコラボ)について 5

■ 数字で見る九工大の産学連携 6

■ コーディネータ&職員紹介 11

■ 事業活動報告 13

■ 事業採択実績 15



○センター長就任のご挨拶

産学連携推進センター
センター長 教授

鹿毛 浩之



このたび、平成19年4月1日付けで吉田隆一教授の後任として、産学連携推進センター長を拝命いたしました。

平成17年度から本年3月までの2年間にも同センターの副センター長として皆様方からご指導ご厚情を賜って参りましたが、今後も引き続きご指導ご鞭撻をいただきますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

九州工業大学では、1989年5月に民間企業との連携、共同研究や受託研究の推進、大学発ベンチャーの展開等を目的とした地域共同研究センターを設立いたしましたが、その後の社会の変化や大学の法人化を経ることによって、産学連携の強化、知的財産の効率的な運用、現今の社会ニーズへの素早い対応が益々、必要となつてまいりました。

これまで九州工業大学では、伝統有る全国有数の工業地帯における立地、工学分野に集約された研究組織、比較的スリムな大学の組織等の特徴をうまく生かすことによって、早め早めの体制整備が図られたため、大学発のベンチャー企業数、産学連携部門に対する産業界からの評価、特許等のライセンス料など、いくつもの分野で、幸いにも外部から高い評価を頂くことが出来ました。

しかし、これからは、環境整備のみではなく本当の意味での成果を厳しく問われる時代となりますので、センターとしても更なる努力が必要となります。この様な情勢を受けて、これまで別々の組織であった地域共同研

究センターと知的財産本部を昨年10月に統合し、知的財産、リエゾン、教育支援、ベンチャー支援の4部門を持つ産学連携推進センターを発足させました。これによって、統合なった知的財産部門を含む各部門間での連携を密接なものとしつつ、各部門の責任体制を明確化できるものと考えております。

また、3月末には、地元企業有志によって大学の応援団ともいえる後援組織、技術交流会「キューテックコラボ」を設立いただき、今後の産学連携、地域貢献を進める上での基盤を確保することが出来ました。さらに知的財産本部整備事業についても今後の展開を図るため「国際的な産学連携の推進体制」の整備事業に積極的に応募し、この4月には全国で17件の狭い採択の枠に入ることが出来ました。センターの最も重要な柱である外部資金獲得に結びつくコーディネート事業においても、大学内の多くの研究者の協力を得て平成19年度地域イノベーション創出事業「シーズ発掘試験事業」に52件もの申請をまとめることができましたように、皆様のご協力をいただきながら一步一步前進しております。

このように、これまでの吉田センター長の成果を引き継ぎながら、ますます各事業を発展させ、社会と大学の両方から認めていただけるセンターを目指して、日々精進してまいりますので、皆様方からのご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

特集

Special Issue

九州工業大学 技術交流会の設立

(キューテックコラボ)

○九州工業大学技術交流会の 設立にあたり

九州工業大学技術交流会

会長 鶴田 暁

(環境テクノス㈱代表取締役)



昨今、いわゆる「2007年問題」に代表される製造基盤における後継者不足・技術継承の問題、国際競争力の維持、強化に必要な次世代技術の創出やものづくり基盤技術を担う人材の育成・養成は、地域産業界のみならず、我が国産業界にとっても重要な課題となっており、科学技術を支える優秀な人材の養成や次世代技術の研究開発を行う大学への期待は、ますます高まっています。

これまで、九州工業大学におかれましては、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を目指し、世界をリードする高度技術者の養成、すなわちグローバル・エンジニアの養成を基本的目標として、産業界を担う多くの卒業生修了生を送り出してこられました。

また、地域産業界との連携交流活動を積極的に推進されているところですが、イノベーションが著しく進展する中、経営資源

に乏しい地域産業界にとって、技術力・研究開発力を高めていくためには、大学の外部資源の活用を積極的に図っていくことが必要であり、これまで以上に両者の連携、協力が重要と言えます。

以上の趣旨に基づき、本年3月、地域産業界の方々の御賛同を得て、「九州工業大学技術交流会」(キューテックコラボ)を設立し、九州工業大学と地域産業界の連携の強化を図るとともに、双方の理解と信頼関係を基礎として相互に協力・支援を行い、地域の活性化を図ることといたしました。

本会では、会員からの御提案による事業を企画し、情報提供事業、人材育成事業、共同研究のコーディネートのほか、会員と大学の研究室等が主催する各種の研究会活動等を支援することとしておりますので、皆様の本会への御賛同と御参加をいただけますようお願い申し上げます。

○技術交流会(キューテックコラボ)と 地域との連携

九州工業大学理事・副学長

松永 守央



九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を目指し、世界をリードする高度技術者として産業界を担う3万7千余人の卒業生修了生を送り出して来ました。また、「知の源泉」として地域社会の要請に応え、教育と研究を通して次世代産業の創出・育成に貢献してきました。九州工業大学は創立100周年を迎えようとしていますが、教育と研究は時代の要請が変遷に応じて質的に変化しつつも、この姿勢を貫いてきました。

わが国の経済は回復基調にあると言われていますが、「2007年問題」に代表される製造基盤である後継者不足や技術継承の問題、グローバル化に伴う国際競争の激化、地球温暖化問題などによる製造技術の抜本的な変革など、多様な問題を抱えています。特に、次世代技術の創出やものづくり基盤技術を担う人材の育成・養成と、大学に蓄積された知的財産の産業界への技術移転は、地域産業界のみならず、わが国産業界にとって重要な課題となっています。

北九州地域はわが国近代産業の発祥の地であり、長きに亘って製造業を支えてきました。地域社会からの要請から設置された本学の3つのキャンパスは、基盤工学(戸畑)、情報工学(飯塚)、生命体工学(若松)という機能を分担しています。また、北九州地域において、優れた技術者の養成と次世代技術の研究開発を通し、産業界と連携してきました。素材型産業から、環境、エレクトロニクス、自動車などに製造業が変化する中で、大学自体が教育と研究の質的変革を一層進めるとともに、

地域との産学官連携も形態や内容をさらに充実する必要があります。地域共同研究センターの発足以来、本学の産学連携は、大企業との共同研究による先端的な技術開発に偏りがちであったことは否めません。研究者個人の活動に限定していた地場企業との連携を、全学の組織的な活動として整備し、北部九州に蓄積されてきた技術を先端産業に結びつけることが重要です。

このような観点から、三木会として活動してきた地域との連携活動を、一新することとしました。幸いなことに鶴田会長をはじめとする地元の有力企業の皆様からのご支援を得ることができ、3月29日に技術交流会(キューテックコラボ)を発足することが叶いました。新組織では、三木会を継続するとともに、研究会組織を通じた産学官連携により北部九州からの技術発信と地場産業の育成を目指しています。研究会組織としては、粉体工学研究会、ハイパー乾燥研究会、シーズ発掘研究会、材料強度研究会、ものづくり研究会、バイオ機器研究会、ベンチャーキャピタル研究会、機能性複合材料研究会、福祉・支援機器研究会、エネルギー研究会、プロジェクトマネジメント研究会などが活動を始めています。

さらに、ベンチャー企業の創出や育成、知的財産権に関わる活動などの本学の実績を生かした活動も企画していく予定です。

キューテックコラボの活動により、地域の皆様方と手を携えて、北部九州地域をアジアへのゲートウェイとして産業や技術の発信基地となることを目指しています。これからの一層のご支援を賜りますことをお願いいたします。

○特集

九州工業大学
キューテック
コラボ
技術交流会の設立

九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）について

九州工業大学では、産業界との一層の連携を深め、本学が有する知的・人的・物的資源の活用を通じた成果の創出により地域社会の発展への貢献を図るため、九州工業大学技術交流会「キューテックコラボ」を平成19年3月29日（木）に発足しました。

○本交流会は、企業、関係機関、市民が会員として参加、運営し、大学が活動を支援するもので、地域企業のニーズに応じて下記の事業を実施します。

- **情報提供**（研究情報、公募事業、知的財産情報（未公開特許情報等）、セミナー、商談会）
- **人材育成支援**（講師派遣、研究員受け入れ、インターンシップ事業等）
- **会員企業、大学の研究室等が主催する研究会[※]の支援**
- **共同研究、受託研究のコーディネート**
- **ベンチャー、LLP（有限責任事業組合）設立支援**
- **月例のセミナー・交流会「三木会」の開催等**

（毎月第三木曜日16:00～ 産学連携推進センター2F セミナー室で開催。参加費無料）



※分野、テーマ別に研究会を立ち上げ予定

粉体工学研究会／ハイパー乾燥研究会
／シーズ発掘研究会／先進高強度・高機能材料研究会／ものづくり研究会／バイオ機器研究会／ベンチャーキャピタル研究会／機能性複合材料研究会／福祉・支援機器研究会／エネルギー研究会／プロジェクトマネジメント研究会／インターンシップ研究会 等

企業のメリット

- ・セミナー、研究会を通じた情報収集
- ・大学との連携による企業の技術高度化
- ・大学からの技術移転
- ・企業社員の人材育成、技術力向上 等

大学のメリット

- ・共同研究、受託研究の実施
- ・競争的資金の獲得
- ・共同研究、インターンシップ等を通じた人材の育成
- ・企業家マインドの醸成
- ・ベンチャー創出による研究シーズの活用 等

地域のメリット

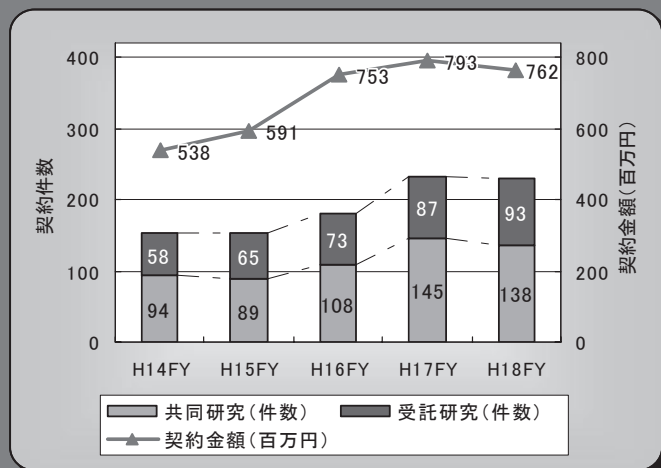
- ・企業の技術高度化を通じた地域力のアップ
- ・特色ある研究、成果による地域への求心力強化
- ・大学との連携による学生の地元への就職増 等



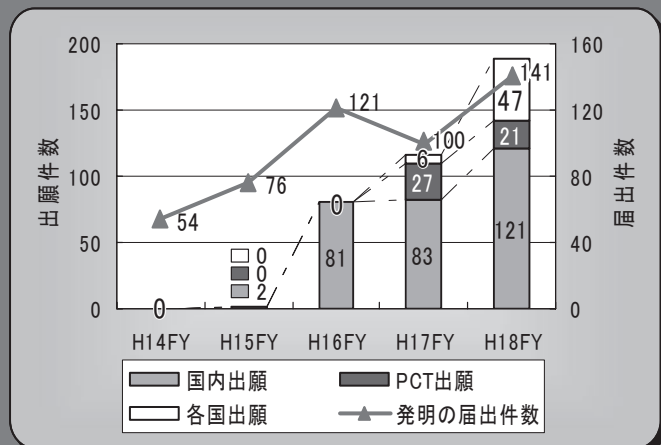
入会金・年会費無料。入会について、詳しくは、ホームページ（<http://www.ccr.kyutech.ac.jp/>）または、産学連携推進センター（TEL093-884-3485）まで御連絡下さい。

○数字で見る九工大の産学連携

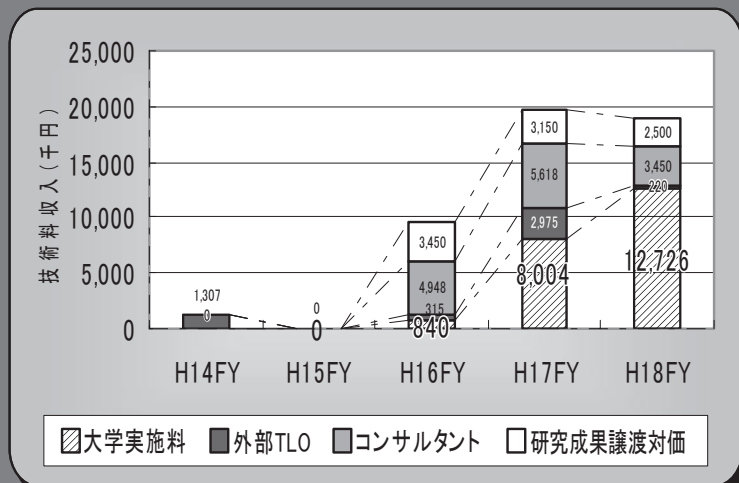
●共同研究・受託研究契約実績の推移



●発明の届出と特許出願件数の推移



●技術料収入の推移



平成16年4月の国立大法人化以降、これまで以上に産業界との連携を強めてきております。直近5年間の共同研究・受託研究、発明・特許出願、技術料収入の推移は次のとおりです。

◇共同・受託研究

件数では2年連続で200件を超えており、金額では、ここ3年間の平均で約7億7千万円でした。

◇発明の届出と特許出願件数

知的財産活動を本格的に開始した平成16年度から国内出願が急激に増加し、平成17年度からはPCT出願（国際出願）を開始しました。平成18年度はPCT出願からの各国移行が増加しています。

◇技術移転・コンサルタント等の収入

平成16年度から技術移転活動を開始しました。初年度は出願したばかりの特許をすぐ技術移転するのも難しいので、コンサルタントや研究成果譲渡による対価が主な収入でしたが、平成17年度からは、特許やプログラム等の知的財産権の技術移転収入が1千万円を超えています。

その中でも、大学の技術移転活動による収入（大学実施料）は、着実に増加しています。

平成18年度 共同研究一覧 (138件)

※職名：H19年6月1日現在

部 局	所 属 / 職	氏 名	企 業 等 名	研 究 題 目
工学部	機械知能工学科 ／教授	鶴田 隆治	非公開	非公開
工学部	機械知能工学科 ／教授	野田 尚昭	日本鑄鍛鋼株式会社製造部 鑄鋼工場	大型鑄鋼品の亀裂欠陥予測技術に関する研究
工学部	機械知能工学科 ／教授	野田 尚昭	株式会社日立金属若松	セラミックス製回転体の構造解析
工学部	機械知能工学科 ／教授	米本 浩一	川崎重工工業株式会社 航空宇宙カンパニー	将来の宇宙輸送システムに関する研究
工学部	機械知能工学科 ／准教授	梅景 俊彦	新日本製鐵株式會社 技術 開発本部 環境・プロセス研究開発セン ター 製鉄研究開発部	CO ₂ 排出ミニマムを目指した実高炉内の四相（固気液粉） 流れの大規模シミュレーション
工学部	機械知能工学科 ／准教授	河部 徹	株式会社ケン・マツウラ レーシングサービス	レースエンジン用バーチャルベンチの開発
工学部	機械知能工学科 ／助教	西田 健	安川情報システム株式会社	3次元計測技術の確立
工学部	機械知能工学科 ／助教	西田 健	安川情報システム株式会社	3次元計測技術の確立
工学部	建設社会工学科 ／教授	幸左 賢二	八千代エンジニアリング株式 会社 総合事業本部	開削トンネルの合理的な配筋手法に関する研究
工学部	建設社会工学科 ／教授	永瀬 英生	非公開	非公開
工学部	建設社会工学科 ／准教授	伊東啓太郎	株式会社富士機	浚掘土の中性化固化による植栽基盤材料の開発
工学部	建設社会工学科 ／准教授	木村 吉郎	大日本コンサルタント株式会社	3径間連続鋼中路式ニールセンアーチ橋のガスト応答に 関する研究
工学部	建設社会工学科 ／准教授	廣岡 明彦	ヒロセ株式会社 補強土カ ンパニー	テールアルメ工法の橋台背面補強への応用実験
工学部	電気工学科 ／教授	桑原 伸夫	N T T アドバンステクノロジ 株式会社 アクセスネットワーク事業本部	容量性電圧プローブの周波数拡大と評価法に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	桑原 伸夫	大和冷機工業株式会社 技術本部	冷凍機に使用する駆動回路のEMI発生メカニズムと低減 法に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	芹川 聖一	株式会社セキュリティージャパン	冷却不要・耐熱カメラの開発
工学部	電気工学科 ／教授	芹川 聖一	株式会社上野製作所	身体障害者専用駐車告知システムの開発研究
工学部	電気工学科 ／教授	趙 孟佑	独立行政法人宇宙航空研究 開発機構	・人工衛星のプラズマ干渉・帯電に関する研究 ・宇宙環境への高電圧バス技術の適用性の研究
工学部	電気工学科 ／教授	趙 孟佑	独立行政法人宇宙航空研究 開発機構 総合技術研究本部	導電性テザーの放電試験
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	東京電力株式会社	GISの部分放電および電磁波伝搬現象解明による絶縁 診断高度化に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝浜川崎工場	GISにおける部分放電パルス伝搬／漏洩現象の調査・解 析に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社日本A E パワーシ テムズ	真空開閉装置を用いた環境保全形ガス絶縁機器に関す る研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	非公開	非公開
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝浜川崎工場	UHF法による油入変圧器の部分放電検出技術に関する 研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	非公開	非公開
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	桑原電工株式会社	回転機のレヤー絶縁診断システムの開発
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社ジェイ・パワーシ テムズ	部分放電発生位置標定精度向上に関する基礎検討
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	大日本印刷株式会社 研究開発センター	Hot-Wire CVD法に関する共同研究
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	東洋ステンレス研磨工業株 式会社	産業用金属材料に施すSICN膜（表面硬化・親水性付加） の開発
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	ハリマ化成株式会社筑波研 究所	金属微粒子を用いた配線形成技術の開発
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	東洋ステンレス研磨工業株 式会社	高耐食性透明絶縁膜の各種金属への適用
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	技術研究組合超先端電子技 術開発機構	水素ラジカル輸送過程の研究

部 局	所 属 / 職	氏 名	企 業 等 名	研 究 題 目
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	株式会社ユニバーサルシステムズ	ホットワイヤー装置の開発
工学部	電気工学科 ／准教授	中司 賢一	非公開	非公開
工学部	電気工学科 ／准教授	中司 賢一	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	積水樹脂株式会社	可視光応答型二酸化チタン光触媒の性能向上に関する研究
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	長崎県防カビ業協同組合	光触媒を用いたカビの種類に依らない防カビ塗料開発
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	触媒化成工業株式会社	可視光応答性を有する反応場分離型酸化チタンナノチューブ光触媒の開発
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	鹿毛 浩之	日環特殊株式会社	合流式下水道改善システムの開発
工学部	物質工学科 ／教授	鹿毛 浩之	北九州市	傾斜沈降管を利用した高度処理システムの開発
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	株式会社シグマリーサイクル技術研究所	設定された粒子径(10nmおよび20nm)を持つ水酸化鉄コロイド粒子の作製とその安定化方法の開発
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／准教授	植田 和茂	独立行政法人科学技術振興機構	酸化物及び非酸化物化合物から構成される層状化合物のナノ構造を活用した機能の開拓
工学部	物質工学科 ／教授	大谷 博司	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／教授	大谷 博司	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／准教授	高須登実男	JFE商事株式会社	資源やプロセスの調査研究
工学部	物質工学科 ／准教授	坪田 敏樹	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／准教授	坪田 敏樹	株式会社日本リモナイト	廃棄金属スラッジを触媒とした活性炭の開発
工学部	物質工学科 ／准教授	廣田 健治	トヨタ自動車株式会社 ドライブレイン生技部	高強度塑性結合法の開発－部材間の硬度差が大きい場合に関する基礎的検討－
工学部	物質工学科 ／准教授	山村 方人	非公開	非公開
工学部	物質工学科 ／准教授	山村 方人	非公開	非公開
工学部	共通講座 ／准教授	中尾 基	非公開	非公開
工学部	共通講座 ／准教授	中尾 基	株式会社堀場製作所	減圧沸騰噴霧方式によるCVD膜の評価に関する研究
工学研究科	電気工学専攻 ／准教授	池永 全志	非公開	非公開
工学研究科	電気工学専攻 ／准教授	池永 全志	日本電気通信システム株式会社	無線メッシュネットワークに関する共同研究
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	松永 守央	ダイソー株式会社研究所	電極触媒の層数効果を活用した高活性化技術の解明
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	山崎 二郎	九州ミツミ株式会社	メタルコンポジット材の開発
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／准教授	高原 良博	株式会社黒木工業所技術研究所	金属混合粉末の高密度バルク化に関する研究
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／助教	森口 哲次	株式会社虎変堂	AIT等天然成分を用いた食品添加物グレードの厨房用(食品加工場等)抗菌剤の開発
情報工学部	知能情報工学科 ／教授	江島 俊朗	株式会社安川電機	次世代ロボットに関する研究
情報工学部	知能情報工学科 ／助教	榎田 修一	財団法人日本自動車研究所	画像解析技術開発基礎研究
情報工学部	知能情報工学科 ／助教	榎田 修一	安川情報システム株式会社	動画像における超解像処理に関する研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾家 祐二	株式会社KDDI研究所	多地点ISP品質計測・障害検知技術に関する研究

部 局	所 属 / 職	氏 名	企 業 等 名	研 究 題 目
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾家 祐二	非公開	非公開
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾知 博	株式会社半導体理工学研究センター	低消費電力型超高速無線通信システムの開発とそのIP化に関する研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	梶原 誠司	株式会社システム・ジェイディー	テストパターンの低消費電力化
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	梶原 誠司	株式会社半導体理工学研究センター	高品質高効率デイレイテスト手法の研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	鶴 正人	株式会社KDDI研究所	ネットワークモグラフィ技術の研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	鶴 正人	株式会社KDDI研究所	多地点ISP品質計測・障害検知・経路監視技術に関する共同研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	鶴 正人	非公開	非公開
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	藤居 仁	株式会社産学連携機構九州	リアルタイム眼底血流画像化装置の実用化研究開発
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	藤居 仁	株式会社シスコム	皮下血流測定に基づく個人認証システム及び個人認証装置の開発
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	九州電力株式会社	第三高調波電圧を用いた高温超電導線材の臨界電流密度評価
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	住友電気工業株式会社 電力・エネルギー研究所	Bi系超電導線材のE-J特性評価
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	財団法人国際超電導産業技術研究センター	高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究
情報工学部	電子情報工学科 ／准教授	小田部 莊司	九州電力株式会社	発酵等における磁場効果の基礎研究
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	大川不二夫	安川情報システム株式会社	ロボットビジョン技術の確立
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	小林 史典	システムエルエスアイ株式会社	低ジッタ高通倍ハイブリッド型最短時間PLLの研究開発
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	井上 勝裕	松下電工株式会社電器R&Dセンター	就寝時体調モニタリングに係る統合的技術開発に関する研究
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	小黒 龍一	岡野バルブ製造株式会社	直流電動弁の挙動及び劣化推定技術の研究
情報工学部	システム創成情報工学科 ／准教授	古賀 雅伸	新日本製鐵株式會社	シミュレータ開発環境の研究
情報工学部	システム創成情報工学科 ／助手(当時)	渡邊 実	非公開(退職)	非公開(退職)
情報工学部	機械情報工学科 ／教授	木村 景一	JSR株式会社	CMPにおけるパッド表面でのスラリフローの研究
情報工学部	機械情報工学科 ／教授	木村 景一	株式会社クラレ 新事業開発部 くらしき研究所	CMPパッドに関する研磨メカニズムの研究
情報工学部	機械情報工学科 ／教授	鈴木 裕	非公開	非公開
情報工学部	機械情報工学科 ／准教授	永山 勝也	東亜精工株式会社	非公開
情報工学部	機械情報工学科 ／助教	二保 知也	非公開	非公開
情報工学部	生命情報工学科 ／教授	岡元 孝二	非公開	非公開
情報工学部	生命情報工学科 ／教授	仁川 純一	非公開	非公開
情報工学部	生命情報工学科 ／准教授	大内 将吉	有限会社ベセル	細胞培養におけるプロテオミクスの応用
情報工学研究科	情報創成工学専攻 ／教授	橋本 正明	松下電工株式会社	組込み系ソフトウェア分野の非正常系仕様設定技術の研究
情報工学研究科	情報創成工学専攻 ／教授	吉田 隆一	有限会社足立	ハンディキャッパー個人に応じた情報提供に関する研究
情報工学研究科	情報創成工学専攻 ／教授	吉田 隆一	株式会社ゼンリン	XML符号化方式による3次元地図の記述
情報工学研究科	情報創成工学専攻 ／教授	吉田 隆一	@ESOFT Computer System (Pvt) Limited	遠隔医療のためのグループ連携システムの設計と実装
情報工学研究科	情報創成工学専攻 ／教授	温 暁青	独立行政法人科学技術振興機構	次世代LSIテスト設計自動化システムの研究開発
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	金藤 敬一	イーメックス株式会社	導電性高分子ソフトアクチュエータの高性能化
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井 義人	FELDA PALM INDUSTRIES	新規有用物質生産のためのバイオガスおよびバイオマスの有効利用
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井 義人	東京ガス株式会社	海浜におけるアオサ等バイオマスの収集法に関する調査研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井 義人	非公開	非公開

九州工業大学産学連携推進センターNEWS

部 局	所 属 / 職	氏 名	企 業 等 名	研 究 題 目
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	白井 義人	新日本製鐵株式會社 プラント・環境事業部 北九州環境技術センター	食品廃棄物から有用発酵物を生産するシステムの研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾 一政	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾 一政	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾 一政	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西尾 一政	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	西野 憲和	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	花本 剛士	岡野バルブ製造株式会社	直流電動弁の挙動及び劣化推定技術の研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	早瀬 修二	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／教授	春山 哲也	東陶機器株式会社総合研究所	新規バイオセンサのための分子認識機構の研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	玉川 雅章	株式会社安川電機 システムエンジニアリング 事業部	キャビテーション発生ノズルおよび消泡機器の研究開発
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎 康次	株式会社デンソー基礎研究所	フォノン輸送理論によるナノ構造物の熱伝導計算
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎 康次	株式会社フジコー	NaCo2O4のナノ構造制御と熱電特性
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎 康次	熱産ヒート株式会社	薄膜型T-type熱電対の実用化
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎 康次	非公開	非公開
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	宮崎 敏樹	ナカシマプロペラ株式会社	生体機能を利用した骨構造再構築材料の開発 (平成18年度おかやま・チャレンジプロジェクト支援事業 補助金)
生命体工学研究科	生体機能専攻 ／准教授	和田 親宗	株式会社エーエスエー・ システムズ	装着型上肢運動支援ロボットの研究開発
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／教授	夏目季代久	独立行政法人理化学研究所	細胞・局所回路網レベルのNeuroinformatics
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／准教授	神酒 勤	非公開	非公開
生命体工学研究科	脳情報専攻 ／准教授	宮本 弘之	西部電機株式会社	スタッククレーン及び移動体の最適速度制御の検討
マイクロ化総合技術センター	／教授（当時）	浅野 種正	非公開（退職）	非公開（退職）
マイクロ化総合技術センター	／准教授	馬場 昭好	非公開	非公開
ヒューマンIT開発センター	／教授	石原 政道	沖電気工業株式会社	貫通方式の両面電極リアルチップサイズ・PKGの開発
ヒューマンIT開発センター	／教授	佐藤 寧	日立マクセル株式会社	音響に関する研究
ヒューマンIT開発センター	／教授	佐藤 寧	東京ガス株式会社	防災情報配信における、省エネルギー情報伝達技術の研究開発
ヒューマンIT開発センター	／教授	佐藤 寧	情報技術開発株式会社	テスター向けプログラム作成ツールの研究
ネットワークデザイン 研究センター	／准教授	内田 真人	九州電力株式会社	ネットワーク特性の計測方法に関する研究
安全衛生推進室	／准教授	柿本 幸司	財団法人福岡県環境保全公社	下水汚泥焼却灰等有害廃棄物の新規省エネリサイクル技術による商品・事業化開発
安全衛生推進室	／准教授	柿本 幸司	九州めっき工業組合	パイロットプラントを用いた亜鉛めっき廃液の沈殿処理

産学官をつなぐ強い味方 —— コーディネータ & 職員紹介

●コーディネータ



○氏名

田中 洋征（たなか ひろゆき）【文部科学省派遣】《客員教授》

○専門分野

機械工学（材料強度、疲労、溶接強度）、研究開発マネジメント

○自己PR

これまでに学会（日本材料学会、溶接学会）の評議員、常議員、九州地区溶接検定委員会評価委員、福岡県カタライザー等を経験し九州地区の大学、公設研、独立行政法人産業技術総合研究所九州センターおよび企業等に人脈を有しています。また、これまでに、ものづくり分野を中心に100件以上の産学（官）共同研究をコーディネートしてきたことから、共同研究における産学のまとめ方、事業として成功するノウハウおよび申請のポイント等に精通しています。



○氏名

大矢 伸宏（おおや のぶひろ）《客員教授》

○専門分野

自動制御、コンピュータ応用、電気電子応用、研究開発マネジメント

○自己PR

各種機械の自動制御、コンピュータ制御、ソフトウェア開発、研究開発マネジメントを経験してきました。そして、この数十年にわたる発展の底流となった半導体技術にも興味をもってきました。

（株）北九州テクノセンターにおいて5年以上産学官共同研究のコーディネート実務に服しており、経験も豊富です。産学連携研究の実際にも精通しています。



○氏名

大八木 衆司（おおやぎ しゅうじ）《客員教授》

○専門分野

自動化・メカトロニクス化、計測制御、情報通信技術、研究開発管理、技術士（電気電子）

○自己PR

機械、船舶、発電プラントの制御・自動化システム開発、産業機械、走行機械、製紙機械の自動化・メカトロニクス開発、さらに建設自動化、情報化施工システム開発および研究開発管理を長年企業で経験しています。

企業への学内シーズの提供と、学内への企業ニーズの提供および両者のマッチングに注力しますので、気軽に声をかけてください。



○氏名

小川 勝（おがわ まさる）《客員教授》

○専門分野

化学（化学一般、ゴム・プラスチック、FRP、セラミック）、研究開発マネジメント、特許管理、その他IT関係を除くバイオ、環境技術を含む広域分野

○自己PR

東陶機器(株)研究所長、技術開発部長、特許管理部長、環境管理部長を歴任する中で全国レベルでの多くの人脈を得ています。また、福岡県産業・科学振興財団カタライザー及びマッチングコーディネータ等を務め九州地区の大学、公設研、および企業等に人脈を有しています。独立行政法人科学技術振興機構（JST）から1999年以来現在まで委嘱業務を遂行しています。

これまでに、産学（官）共同研究をコーディネートした結果、成功した助成金・補助金等の金額の累計は、11年間で37億円に達します。広い分野において研究開発企画、共同研究における産学のまとめ方、事業として成功するノウハウおよび申請のポイント等に精通しています。



○氏名
島谷 哲雄（しまたに てつお）
○専門分野
化学
○自己PR

化学会社に30年間勤務しました。（ポリスチレン成形・加工研究に6年間従事した後はBTX・SM等の危険物製造設備やアンモニア等高压ガス製造設備の操業・工場管理に従事しました。）この工場経験から、次の事柄がお手伝いできます。

- ①新製品開発における現場と研究間の調整や製品用途開発営業の支援
- ②化学工場・機器に関する安全な操業指導、公害防止処置、廃棄物処理、省エネ、プラスチック加工（ポリスチレン）等の支援



○氏名
鈴木久夫（すずき ひさお）
○専門分野
計測工学、センサー技術
○自己PR

八幡製鐵(株)（1970.4合併して新日本製鐵(株)）、旭計器工業(株)在職中に、計測技術の研究開発に従事し、この間、多くの計測機器メーカーと共同研究を実施し計測新技術を開発しました。（共同研究の進め方の留意点をまとめ、多くの講演を行いました。）

1995年に設立された北九州テクノセンターの支援機関T・S会の副会長、会長を務めた他、福岡県技術アドバイザー、JST研究成果実用化促進委員に就任し、北九州地域の中小企業の振興に努力してきました。

メッセージ：研究テーマを選定または決定する場合、関連分野の既出願特許の事前調査を行うことにより、全体的な効率が高まります。

●職 員

○センター長（教授）／教育支援部門長	か げ ひろゆき 鹿毛 浩之	・事務補佐員	たけした のぶ こ 武下 照子
○副センター長（教授）／飯塚分室長 ／ベンチャー支援部門長	お ぐろ りゅういち 小黒 龍一	・事務補佐員	りょうち よし の 領地 淑乃
○知的財産部門長（教授）	なかむら く に ひ こ 中村 邦彦	・技術交流会担当	やす だ きよ み 安田 清美
○リエゾン部門長（教授）	さ え き むね た か 佐伯 心高	・嘱託職員	ふくろの まさ と し 袋野 正敏
○飯塚分室			
○戸畑本部		・助教（兼任）	ほん だ あおい 本田 あおい
・准教授	なか む た あきら 中牟田 晃	・助教（兼任）	こばやし じゅん 小林 順
・知的財産マネージャー（客員教授）	あん どう し ず か 安東 静	・事務補佐員	しば た ま り こ 柴田 麻理子
・知的財産マネージャー（客員教授）	お な か たけ も と 尾仲 武基		
・知的財産マネージャー	なか ま たつ お 中間 達雄	○東京リエゾンオフィス	
・知的財産業務支援職員	こ じ ま たか ゆ き 児嶋 崇之	・事務補佐員	ち あ き その こ 千秋 園子

○事業活動報告

平成18年度 活動報告

◇「事業開発ビジネス講座～MOTによるイノベーション」

平成14年度から3ヶ年実施しておりました「起業家育成塾」の実績を踏まえ、平成17年度から新たに広く社会人の方を対象とした公開講座「事業開発ビジネス講座」を開催しております。平成18年度は、大学や企業が有している技術をいかに事業開発に結びつけてイノベーションを起こしていくか、その方法について、外部の専門家を招聘し、知的財産戦略、新規事業戦略、産学連携などをテーマに計6回開催いたしました。

平成18年度の開催状況

日時	テーマ	講師	
		所属	氏名
平成19年1月18日	イノベーションとMOT ～イノベーション・スーパーハイウェイ構想～	経済産業省大学連携推進課 産業技術人材企画調整官	後藤 義人氏
平成19年2月2日	起業戦略～好きなことをしたい（0から1を生み出すアントレプレナー力は、情熱と革新から生まれる）	(株)あきない総合研究所 代表取締役社長	吉田 雅紀氏
平成19年2月8日	日本としての国際知財戦略～対東アジア対策を中心に～	日高東亜国際特許事務所長 弁理士	日高 賢治氏
平成19年2月15日	産学連携の体験から～タカノ(株)の実例を紹介	タカノ(株) 相談役	堀井 朝運氏
平成19年2月22日	経営戦略～技術をビジネスシステム（事業の仕組み）として構築するには	広島大学大学院社会科学研 究科マネジメント専攻長	井上 善海氏
平成19年3月1日	真の協業による事業開発～新商品開発はビジネスモデルから	システムインテグレーション(株) 代表取締役社長	多喜 義彦氏

◇「中小企業との産学連携推進事業～チャレンジング・サポート事業等」

本学では、中小企業との連携を積極的に推進していくことを目的に、新たな共同研究に対し、共同研究費用の一部を支援する「チャレンジング・サポート事業（CS事業）」や次年度以降の競争的資金獲得に向けた活動を支援する「事業化可能性調査事業（FS事業）」を行っております。中小企業との共同研究に対する支援を通じた地域貢献を果たすとともに、大学の新たな研究の芽が育っていくことを期待しております。（平成18年度は、8つのCS事業、5つのFS事業を支援）

なお、平成19年度からは、上記事業に加え、大学のシーズを中小企業との共同研究に結びつけるため、新たに「スタートアップ事業（SU事業）」を開始する予定です。

◇「九州工業大学ビジネスプランコンテスト」

ベンチャーマインドの高揚と新たなビジネスの芽を発掘し、大学発ベンチャーの創出を推進することを目的に、平成18年度から新たにビジネスプランコンテストを実施しました。平成18年11月17日に第1回九州工業大学ビジネスプランコンテストの発表会を実施し、学生を中心に4件のビジネスプランが発表されました。

（グランプリ：情報工学部卒業生 マルズキ・キルメン氏 審査員奨励賞：工学研究科 内山達也氏）

◇「九州工業大学技術交流会～三木会（さんもくかい）」

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者が集まる‘場’として、平成17年度から毎月第3木曜日に実施しております「三木会」を引き続き開催いたしました。

平成18年度三木会開催状況

※職名：H19年6月1日現在

回	日時	テーマ	講師	
			所属	氏名
7	2006年 4 月20日	材料の力学～ふたつの産学官連携事例から～	九州工業大学工学部機械知能工学科教授	野田 尚昭氏
8	2006年 5 月18日	集積回路の高信頼化技術	九州工業大学情報工学研究科 教授	温 暁青氏
9	2006年 6 月15日	太陽光を利用した光触媒による環境調和型技術	九州工業大学工学部物質工学科教授	横野 照尚氏
10	2006年 7 月20日	安全、安価な高耐食性皮膜材料の開発	九州工業大学工学部電気工学科准教授	和泉 亮氏
11	2006年 8 月17日	電気化学チップを用いた生活習慣病診断技術の開発	九州工業大学工学部物質工学科教授	竹中 繁織氏
12	2006年 9 月21日	ベンチャー企業と株式上場について	福岡証券取引所 専務理事	小西 雄二氏
13	2006年10月19日	電気のマクロ、ミクロ	九州工業大学工学部電気工学科教授	三谷 康範氏
14	2006年11月16日	経済産業省の研究開発支援事業について	九州経済産業局地域経済部技術企画課長	田上 哲也氏
		LLPとは？～新事業の新しい形～	けやき通り会計事務所 公認会計士	児玉 邦康氏
15	2006年12月21日	潤滑下で発生するトライボロジー問題	九州工業大学工学部機械知能工学科教授（当時）	兼田 楨宏氏
16	2007年 1 月18日	イノベーションとMOT（事業開発ビジネス講座）	経済産業省産業技術環境局大学連携推進課 産業技術人材企画調整官	後藤 義人氏
17	2007年 2 月15日	産学連携の体験から（事業開発ビジネス講座）	タカノ(株) 相談役	堀井 朝運氏
18	2007年 3 月15日	福祉機器・支援機器・最前線	九州工業大学大学院生命体工学研究科准教授	和田 親宗氏

◇新技術説明会（JST）の実施

独立行政法人科学技術振興機構（JST）は、大学等が主体となった特許等の研究成果の社会還元活動を支援するため大学等と連携した「新技術説明会」を開催しています。

本学では、この支援制度を利用して、平成19年1月29日（月）、科学技術振興機構JSTホール（東京・市ヶ谷）において、以下の情報系技術11件について新技術説明会を開催しました。当日は情報系分野の企業から170名余の参加者があり、一日中会場は満員で、活気溢れる説明会でした。



※職名：H19年6月1日現在

1. 自然言語対話・コールセンター・情報検索・情報抽出・文書要約（情報工学部 知能情報工学科 教授 野村 浩郷）
2. 携帯端末に適した画像のコンパクト高画質圧縮法（工学部 電気工学科 教授 近藤 浩）
3. e-Learningでの教材の読解を促進するための学習支援方法（情報工学部 知能情報工学科 教授 竹内 章）
4. 圧縮で失われた音の復元技術（ヒューマンライフIT開発センター 教授 佐藤 寧）
5. 人の動きから画像と音を作り出すインタラクティブ・ディスプレイ・システム（ヒューマンライフIT開発センター 講師 中村 俊介）
6. 仮想人間の長時間アニメーション技術（情報工学部 システム創成情報工学科 准教授 尾下 真樹）
7. 組込みソフトウェア仕様化のための非正常系分析技術（情報工学研究科 情報創成工学専攻 教授 橋本 正明）
8. 人物動作の立体モデル化および認識法（工学部 機械知能工学科 教授 石川 聖二）
9. 平行ステレオカメラを用いた身振り認識のための腕姿勢推定装置（生命体工学研究科 脳情報専攻 准教授 宮本 弘之）
10. 異なる照明方式による対象物表面の欠陥検査アルゴリズム（工学研究科 機能システム創成工学専攻 准教授 脇迫 仁）
11. 脳を真似て試行錯誤で複雑なシステムモデリングを行うSORネットワーク（生命体工学研究科 脳情報専攻 教授 山川 烈）

◇連携協定を締結

❖福岡県工業技術センター

本学は平成18年4月に福岡県工業技術センターと包括的な連携協定を締結しました。この連携協定は、本学が進める研究、教育、地域貢献等の取り組みと、福岡県工業技術センターが進めるものづくり企業の高度化支援等の取り組みとを有機的に連携し、ものづくり企業の技術の高度化、新技術の創造、人材育成等に寄与するため、両者の間において一層の連携強化を図るものです。

❖地元企業3社

本学は平成19年1月に(株)エーエスエー・システムズ、大光炉材(株)、大喜工業(株)の3社と、北九州地域中小企業の活性化と求心力強化のため、包括的連携協定を締結しました。

これまでの研究開発中心の連携から、共同研究による研究者交流、学生のインターンシップ、大学への社員派遣など幅広い人材交流を図り、基盤技術高度化や新規研究開発などに共同で取り組むものです。

❖韓国の水原大学校と昌原国立大学校

本センターは平成19年3月に韓国の水原（スウォン）大学校産学協力団との間で知的財産権に関する協力の覚書を締結しました。この覚書は、両大学が保有する特許を活用し、日韓両国の企業を含めた産学連携を進めるためのもので、北九州地域と水原地域の企業からのライセンス収入の獲得や、両大学間、大学—企業間の共同研究等への発展が期待されます。

本センターでは平成18年度より、知的財産を核としたアジア地域での知財連携モデルの構築を図っており、平成18年6月にも、韓国の昌原（チャンウォン）国立大学校産学協力団との間で同様の覚書を締結しています。



場 所 水原大学校 産学協力団
中央左 鹿毛 浩之センター長（当時／副センター長）
中央右 水原大学校産学協力団 金 賢起（キム・ヒョンギ）団長

○事業採択実績

平成18年度 採択事業

◇シーズ発掘事業（JST:独立行政法人 科学技術振興機構）

本センターのコーディネータが関与した9事業を中心に、本学の教員の関与した10事業が採択されました。

◇地域新生コンソーシアム研究開発事業（経済産業省）

本学の教員が関与した事業が7件採択され、この中の4事業についてはプロジェクトリーダーとして参画するなど、産業界との大型プロジェクトについても積極的に貢献しています。

◇大学知的財産本部整備事業「内部人材養成事業」(文部科学省)

本学は技術移転業務に携わる「御用聞型」若手人材育成OJTプログラムの実践で応募し、採択されました。

育成対象となる若手事務職員を財団法人九州産業技術センター、農工大TLO、財団法人北九州産業学術推進機構(北九州TLO)に短期間派遣して企業訪問等の産学連携の現場での研修を積ませました。終了後は、研修成果を職場で活かすため、研究協力課産学連携係に配属して、本センターと連携して産学官連携の実務において活躍しています。

平成19年度 採択事業

◇大学知的財産本部整備事業「国際的な産学官連携の推進体制整備」(文部科学省)

文部科学省は「大学知的財産本部整備事業」実施機関(43機関)を対象に、「国際的な産学官連携の推進体制整備」モデル事業の公募を行いました。

33機関から応募があり、国際的な産学官連携の推進体制整備に12機関、特色ある国際的な産学官連携の推進機能プログラムに5機関の計17機関が選定され、本学は「特色ある国際的な産学官連携の推進機能プログラム」事業に採択されました。

○募集!! 技術移転会員

皆様がいままで培ってこられた知識と経験を生かして、
本学が有する特許の技術移転を手伝っていただけませんか。

技術移転会員のお仕事とは

- ・ 本学の「出願特許情報の開示・共有化(TA-NET)システム」により、WEB上で、本学が保有する特許の出願番号、発明の名称、公開公報、特許紹介リーフレット、特許に関連する学会発表資料及び技術移転活動状況等の情報を得ることができます。
- ・ TA-NETシステムをご覧いただき、いままで、培ってこられた知識と経験で、これはいけそうだという特許と企業のマッチングがありましたら、その企業に本学の技術を紹介してください。
- ・ その企業が特許に興味を持ったとき、本センターの知的財産部門に連絡してください。
- ・ 後は、知的財産部門がハンドリングします。

応募資格・報酬等

応募資格: 本活動に興味を持ってご支援いただける方であれば、どなたでもかまいません。

報酬: 技術移転に成功した場合、ライセンス収入額(特許費用等の経費控除後)の1割を成功報酬として支払います。

情報開示: 会員にはTA-NETシステムへのログインのためのIDとパスワードを付与します。

義務: 守秘義務はありません。お気軽に応募してください。

その他: 技術移転アソシエートの名刺を支給します。

連絡先: 九州工業大学 研究協力課 産学連携係 松浦

TEL:093-884-3085 FAX:093-884-3531

E-Mail:ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp